母校・甲陽学院の創立90周年を祝う

同窓会会長　有田　和男（31回）

我らが母校・甲陽学院の栄えある創立90周年を迎え、心からお目出度う御座居ますと申し上げます。

大正６年に誕生した母校の90周年が今日にあるは、創立家の学院設立の趣旨に『古人曰く、一年の計は穀を植うるにあり、十年の計は樹を植うるにあり、百年の計は人を植うるにありと。天下の英才を教育して、各其の天稟を發揮せしめ、光彩陸離百花爛漫の偉観を現出するは、啻に国家百年の大計たるのみならず、人生の快事之れより大なるは無かる可し云々。』とあり、この趣旨に沿って進化を遂げ燦たる今日の甲陽があると考えます。

創立90年の歴史の中の一齣として、戦中・戦後の激動期に母校で学び・遊び・生き抜いた思い出の一端を、少しばかり振り返ってみることをお許し願います。

私は、昭和25年に甲子園の学び舎を巣立って60年近くになります。戦争も敗色の濃い昭和19年の春に、憧れの甲陽中学に200有余名の中の一人として甲陽の校門をくぐりました。上級生は薄いカーキ色の凛々しい学生服でしたが、当時は物資不足で新入生は国防色の戦闘帽と色もマチマチの制服にゲートルを巻いていたのを覚えています。

入学しての初体験は、甲子園駅・西口の南西にある緑の木立の中に校門があり、この正門に向かって左側に木造の小さな衛兵小屋がありました。そこに当番の上級生７・８名が衛兵として教練用の銃を持って立哨をしていました。その前を登校してきた生徒ごとに２列になって、全員で歩調を取り敬礼をしながら規律正しく入門をすることでした。新入生は上級生からしごかれないかと、内心はビクビクしながら登校したものです。

その上級生も、上から順に学徒の勤労動員に召集され、入学した年の秋には１年生だけが校舎で学業と教練に精を出していました。校舎の別館は、特攻の「暁部隊」が訓練に占有していました。（因に、戦後１年ほど占領軍が別館を占拠していました。）私たちは、翌年の早春には勤労動員に駆り出されました。この時、戦局は正に敗戦の激変に向かっていました。会員名簿の中に、この過酷な戦争で亡くなられた先輩方のご氏名が判っている範囲内ですが○印で掲載されています。90周年を機に改めてご冥福をお祈り致します。このような激動の時代を乗り越えて現在の甲陽があると考えます。

戦後、再び母校に戻った私の学年の人数は、Ｂ29の空爆の犠牲者、親の戦死や空襲で家を焼失した仲間などが去り約160名ほどでした。それも学制改革で旧制中学４年卒の29回生と、新制高校の２年目卒の31回生の二つに別れさせられました。最近、この仲間が集まり、あのあらゆる価値観が激変した時代、その真っ只中にあって如何に自分たちの青春に対処して行ったか。人間形成の芽を慈しんでくれた甲陽時代に思いを馳せ、あの当時の「語り部」として文書を残したいと思い立ち、多くの仲間の共感を呼び原稿も集まってきています。

この仲間達がよく語り合うのは、我々はあの時代に多くの良き先生に恵まれて今日の自分があると思う。学制改革もあって学校長に、あの石川啄木と交遊があり、ご自身も歌人である丸谷喜市先生が招聘された。その時に、大学の先生であってもおかしくない人材を、甲陽に教師として登用された。仲間達は、それらの先生の人格と知識・識見にそれぞれが惹きつけられ、物事の見方・考え方・処し方を授けられた。自分の人生の方向さえ導かれたと話し合っています。

更に、入学の最初に叩き込まれたのは「甲陽十二訓」です。南宋の儒学者・朱熹の勤学の名詩「偶成」の抜粋から始まる十二訓は、常に私の脳裏を去来し人生の処世訓として愛用させて頂きました。創立90周年を迎えて、この「甲陽十二訓」の導きに感謝を捧げます。

甲陽だより

発行所
〒662-0096 西宮市角石町3-138
甲陽学院同窓会
発行人 有田和男
印刷所
株式会社 小西印刷所
西宮市今津西浜町2番60号
TEL（0798）-33-0691

同窓会事務局専用
TEL 0798－71－4888
（月・水・木・金 10：00～16：00）
FAX 0798－71－4890
E-mail：
fvgp1650@mb.infoweb.ne.jp
同窓会公式ホームページ
http://www.koyogakuin-oba.jp

今すぐご予約を！

創立90周年記念　会員総会

8月25日㈯ 13時30分～17時　於：ノボテル甲子園

－詳細は15・16ページに－

二つの同窓会

名誉会長　平田　豊（22回）

私には大切な同窓会が二つある。一つは甲陽の同窓会、もう一つは旧制第六高等学校の同窓会である。

旧制六高には、昭和18年から20年の間在籍していた。短い期間であったが、同窓の絆は固い。

自ら云うのもおこがましいが、政、官、財、広い分野に亘って多くの人材が輩出された。

私のクラスには、安倍晋太郎君がいた。若くして政界で活躍し、いずれ総理大臣にと云う大事な時に病魔に冒され、67歳の若さで此の世を去った。本人の無念もさりながら、同窓生一同の嘆きも大であった。

然し、その後色々な曲折はあったが、息子の晋三君が見事総理の座を射止め、応援の甲斐があったと一同喜んだものである。

先般、5月16日には「晋三君の総理就任を祝う会」を、東京のホテルで開催したが、晋太郎君の未亡人も列席し盛会であった。晋三総理も30分の予定が1時間に延長され、喜びを共にしたのである。

唯、六高の同窓会には、あと何年続くであろうかと云う宿命がある。学制改革で旧制高校は廃止となり、あとに続く後輩がいないからである。今年で創立107周年を迎えたが、同窓生の最低年齢は今や75歳となり、今後会員数は減少するばかりである。我々亡き後、子供や孫達の時代が誇りと自信に満ちたものである事、その様な日本にして貰いたいと、晋三総理を激励したのであった。

一方、我が甲陽は今年創立90周年を迎える。幸い、此の同窓会は会員総数1万6千名を数えるに至り、有為の人材が各界で活躍中である。かねてからの念願であった奨学金制度も発足し、今後一層充実していくであろう。将来そういった中から、晋三総理の様な若きリーダーや、ノーベル賞の受賞者が出てくる事を期待して止まない。

―創立90周年に寄せて―

校風に想う

育友会元会長　小寺和敬（55回）

甲陽学院創立90周年おめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。

今から8年ほど前になりますが、子どもが中学に入学し、在学中の6年間育友会の役員を仰せつかり、約30年ぶりに学校へ伺う機会が出来ました。

往年の佇まいを残しながら校舎が一新された中学校、甲山の麓から大阪湾を見渡せる高等学校、それぞれ恵まれた環境の中で成長していく子どもたちの姿を見ておりますと、頼もしく、時には羨ましく感じられました。

共通一次試験以前の世代の私にとりましては、現在の大学入試において模試の偏差値やセンター試験の結果が志望校の決定に大きなウェイトを持つこと、また、医学部志望者が多いことなど受験環境の変化を実感させられました。マーク方式のセンター試験対策も重要になり、勉強方法も変わってきたのかも知れません。

しかし、こうした大学入試の環境の変化はあっても、学校での生活はかつてと変わらず伸び伸びとしたもののようです。高等学校の音展や卒業式などで自由なスタイルで個性を発揮する一方、時には勉強や友人関係などに悩みながら個性を伸ばし、着実に夫々の目標にチャレンジしています。

長年の社会環境の変化の中でも一貫した教育方針が保たれ、生徒を信頼する先生方の努力と、それに応える生徒の質の高さがこの自由と自律を重視する校風を引き継いで来ているのだと思います。

未だに閉塞感が払拭できない現在の社会環境において、今までの教育方針・校風を維持し、将来への目標と高い志を持った子どもたちを育てていくことはより一層の地道な努力が必要とされます。

折しも、中学校では少人数のクラス編成でのよりきめ細かい指導が始まりました。同窓会においても、卒業生による講演会の開催や奨学金ファンドの設立など支援体制が調っています。

今後も在校生と卒業生とが一体となりつつ、甲陽学院が更に飛躍していくことを祈念致しております。

90周年に際して

学校法人辰馬育英会理事長　辰馬伸彦

本年、甲陽学院は創立90周年を迎えました。1917年、第一次世界大戦のさなか、伊賀駒吉郎先生の手により創設された本学院は、時を経ずして第13代辰馬吉左衛門翁の“百年の計は人を植うるにあり”の言葉と共に引き継がれ礎を固めました。そしてその“百年”があと十年と迫っております。この90年の大半をしめる20世紀、それは、優に人類文明発祥以来の歴史にも匹敵する程の大変動の世紀でした。

第一次大戦後の大不況、ナチが引き起こした二度目の世界大戦。日本でもその余波を受けて五・一五、満州事変、二・二六と軍部の台頭。そして太平洋戦争と敗戦で、其れまでの社会構造と価値観が一挙に崩れ去る激変の時を迎えました。

戦後は大国の間に挟まれて、冷戦の影に怯えながらも経済成長に努め、幸い現在Ｇ８の一員として、また世界一の長寿国を唱うまでの豊かな先進国となる事が出来ました。

敗戦後の教育界における最大の変動は、矢張り６、５、３、３の旧制度から、６、３、３、４の新教育制度への移行であったと考えられます。

敗戦による窮乏の中で荒廃した人心、其れ迄の思想の否定、其処へ押しつけられたアメリカ式の制度、日本人の経験に無い事態でした。

甲陽学院も、戦時下に創設された高等商業学校、続く工業専門学校があって、当然新制大学の創設を視野に入れての検討を迫られましたが此処で英断が下り、高等学校・中学校一貫校として、日本のイートン校を標榜して、より一層の向上を目指す事になったと聞いております。

新制移行後、大学紛争から来た学園騒動、発祥の地甲子園から角石町への移転、中学新校舎の建設、阪神大震災と特筆すべき事柄は少なからずあります。これら全て、関係者全員の結集により乗り越える事が出来ました。

敗戦後の教育制度の改変の大波が押し寄せて来た時にあたって、高・中一貫校として進む英断を下し、さらに一層の向上の為の教員陣の充実を果たすべく、単身活躍し、新制甲陽高校、中学校の基礎を築いて来たのが辰馬本家酒造の当時の辰馬吉男会長でした。ご本人が表に出る事を嫌われた所為で、今日その業績を知る人も少なくなりました。

このままでは、埋もれて終うのでは無いかとの危機感を持ち、当時をご存じの方々から、その詳細を聞き出し、記録に留めようと思い立ち皆様にご協力を仰いだのは、一昨年の夏、同窓会総会でのご挨拶の中でした。幸い多数のご賛同とご協力を頂戴する事が出来ました。学校側のご尽力により、本年度の学院記録集“校報”に山内英正先生の手によるその纏めが掲載されて居ります。提案が遅かったので、正にその当時ご活躍になった方々が殆ど居られず、為に一番知りたかった新制甲陽高校の創成の時の吉男会長の活躍の有様をつまびらかにする事を得ず、提案者としては誠に残念でしたが、それでも数々の知らなかった貴重な話を伺う事が出来、会長の学院に対する偉大な貢献が、学院の正史として残せる事となったのは喜ばしく、ご協力下さった皆様に心より感謝申し上げる次第です。

90才、一人の人間なら“卒寿”を得た訳です。

この永い年月、数々の試練を受けながらも甲陽学院が発展し続けて来る事が出来たのは同窓会の皆様からの強力なる支持をバックに受けて、頑張り続けて来られた教職員の方々の一致団結した奮闘の賜物である事に思いを馳せ、此処に厚く御礼を申し上げます。

学校だより　創立90周年記念講演会

『生命（いのち）はすごい・面白い』

国立循環器病センター総長
北村惣一郎（40回）

2007年6月23日㈯、西宮市民会館 アミティホールにて、創立90周年を記念して、第40回生の北村惣一郎先生をお招きし、講演会を開催しました。

先生は、1959年に甲陽学院高等学校を卒業され、大阪大学医学部に進学、65年卒業時には大阪大学楠本賞を受賞されています。66年に同大学第一外科副手。助手、講師を経て、81年には奈良県立医科大学第三外科教授に着任。その間にアメリカに2度留学、97年国立循環器病センター副院長（同年、奈良県立医科大学名誉教授）、2000年同病院長、翌01年同総長に就任、現在に至っておられます。また、国内外の要職も数多く歴任され、現在は日本医学会総会副会頭として、ご専門の心臓血管外科はもとより、広く医学界の指導者としてご活躍中です。そのご功績に対し、91年日本医師会医学賞、03年紫綬褒章、06年武田医学賞を受けておられます。

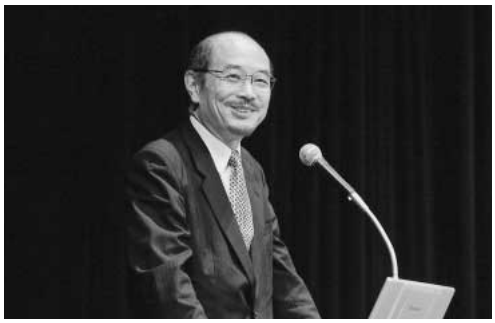
当日は中1～高2は全員、高3は希望者が、先生の熱心な、かつユーモア溢れるご講演に、吸い寄せられるように聴き入っていました。約1時間のご講演の後、生徒の質問にも予定時間を超えて丁寧にお答えくださり、生徒たちにとって、改めて生命科学の面白さや可能性、そして「生命」の重みを考えさせられる一日となりました。

以下に、ご講演要旨を記します。

手塚治虫氏のマンガ「ブラックジャック」に川崎病を手術で治す話がある。川崎病は川崎先生が報告された病気で心臓に瘤ができる不治の病で、当時手術で治すことはできなかった。しかし、今から30年前、私はこの手術を行い成功した。現在川崎病の手術は数多く行われ、多くの人が助かっている。新しい病気がでれば、それに対して新しい治療方法を開発していかなければならない。みなさんの中に、将来こうした仕事に携わってくれる人が出てくることを期待する。

1500年代レオナルド・ダ・ヴィンチが心臓の絵を描いている。人の実際の心臓と少しちがうが、比較的精巧に描かれている。日本では1700年代に解体新書が杉田玄白らによって書かれ、そこにも心臓の絵は登場するが、ダヴィンチの絵に比べると細かいところまで描かれていない。当時日本の医学は世界のレベルよりかなり遅れていた。現在日本の医学は世界のほぼ最先端であり、心臓が動いている動画、血管の中で弁が動く動画などコンピュータグラフィックスで描かれるようになっている。

人は成長の初期に水かきや尾を持つ時期がある。これは、人の祖先が水中で生活する非常に下等な生物であっ



たことを示唆している。下等な生物にプラナリアという生物がいるが、プラナリアは体の断片からでも、体全体が再生する。人の体はそれほど再生力が強くないが、再生力のある細胞が人の体内に存在しており、こうした細胞を使って失った部分や機能しなくなった部分を元に戻す研究が現在盛んに行われている。たとえば、現在の甲陽学院中学校育友会長の澤芳樹氏は、シャーレで心臓の細胞を培養し、それを機能しなくなった心臓に取り付けて心臓を治す研究を行っている。また、ウサギの耳に人の耳を形成させ、それを切り取って人の耳の治療に役立てる研究も行われている。

男性と女性では、体をつくる細胞に含まれる染色体が異なっている。つまり男性はＸＹで女性はＸＸである。しかし、女の人に男の心臓を移植すると、ＸＸの細胞とＸＹの細胞が同じ個体の環境の中で共存することになる。男性と女性は細胞レベルでいっしょに生きることが可能である。女性とは仲良く生きていってほしい。

現在人工心臓の技術が進み、自分の心臓の代わりに人工心臓で生活している人も数多い。今後もっと増えると予想される。脳の病気を治す医療も進んでいる。たとえば、脳のCg25という領域に電極を入れて刺激すると悲しみがとれる。しかし、脳はその人の感情や思考など人格に深く関わっている部分であり、このような医療は倫理上の問題がある。このような問題に今後取り組んでいってもらいたい。

最後にみんなに期待することを3つ挙げる。

１つは自分の体を自分で悪くするようなことはやめてほしい。具体的には喫煙だ。タバコには多くの発ガン性物質が含まれている。統計的にも喫煙者の方がガンになる確率が高い。副流煙によって周りにいる非喫煙者にも害を及ぼす。喫煙者の方が非喫煙者よりも肺はかなり黒っぽい。喫煙に対しては外国の方がもっと厳しい。たとえばタバコの箱に肺癌の写真が載っている。タバコに対しては、それくらい悪いものだという意識を持とう。

２つ目は、広い視野に立って物事を見てほしい。地球の外から地球を見て、地球がわかるように、広い視野に立って物事を見れば、多くのことがわかってくる。

３つ目は、柔軟な発想を持ってほしい。海軍兵学校の試験に、「よく読んで考えることを述べなさい。Fully care, cowards to become Muse no ought （Basho M）」というのがあった。まともに考えると難しいが、（　）内の氏名が芭蕉であることから、英文は“古池や蛙飛び込む水の音”となることがわかる。物事を柔らかく考えてほしい。

学校だより　創立記念音楽会

パスカル・モラゲス クラリネットリサイタル

去る4月29日、本学院高等学校講堂において、創立記念音楽会が開催されました。今年は創立90周年記念ということで、世界的に活躍されているクラリネット奏者であるパスカル・モラゲス氏をお招きすることになりました。モラゲス氏は、18歳という若さでパリ管弦楽団のスーパーソロイストに任命され、現在はパリ国立高等音楽院教授とパリ管弦楽団第1クラリネット奏者という要職におられます。今回は極めて多忙の中、この創立記念音楽会の為だけに来日していただけることになりました。音楽会前日に日本に来られたモラゲス氏は、その日の昼に高等学校講堂にリハーサルの為にお見えになりました。ピアノ伴奏の浅川晶子氏との熱のこもったリハーサルは夜まで続きました。

音楽会当日は、開場前から多数のお客様が詰めかけ、開演時で既に立ち見が出るほどの盛況ぶりでした。熱気に包まれた舞台に浅川氏をエスコートして颯爽と現れたモラゲス氏は、1曲目のショーソンからその洗練された音色で聴衆を引きつけました。2曲目のブラームスのソナタでは、卓越した演奏技術はもちろんのこと、幅広い音楽を存分に聴くことができました。とりわけ秀逸だったのは、休憩を挟んだ後半のドビュッシーではなかったかと思います。フランスのエスプリが効いた色彩豊かな音色が浅川氏のピアノと見事に調和し、豊かな音楽性が十二分に伝わってきたように思います。最後のウェーバーの大協奏的二重奏曲までを見事に吹ききった氏には、満員の聴衆から惜しみない拍手が送られました。アンコールに応えてサン＝サーンスのソナタの2楽章を演奏した後も拍手は鳴りやまず、自ら「ホロヴィッツの2楽章」と日本語で紹介され、アンコール2曲目を演奏してくださいました。

翌日にはパリに帰らなければならないということで、氏は足早に講堂を後にされましたが、その素晴らしい演奏が多くの人々の記憶に刻まれたことは言うまでもありません。

校報最新刊行 …特集… 追想・辰馬本家第14代当主 辰馬吉男会長

甲陽学院では、行事やクラブなど生徒の活動記録を『校報』として毎春刊行しています。2006年度の記録をまとめた冊子は2007年に出されるため、いわゆる『2006年度校報』の刊行を創立90周年事業の一環と考え、第14代当主辰馬吉男氏の足跡を特集いたしました。吉男氏は戦中・戦後の混乱期を乗り越え、甲陽学院の発展に多大の貢献をされました。このたび、現理事長のお力添えもあって、特集号を組むことができました。同窓会会員総会で、90周年記念DVDとともにお頒けする予定ですが、ここに吉男氏の略年譜を掲載いたします。

1900年2月2日	第13代辰馬吉左衛門長男として出生
28年	関西学院文学部英文科卒業
	辰馬本家酒造株式会社入社
32年	辰馬本家酒造株式会社社長就任
37年	第14代当主となる
40年	辰馬学院甲陽高等商業学校設立
47年	学制改革により甲陽学院中学部新設
48年	辰馬本家酒造株式会社会長就任
50年	学校法人辰馬育英会設立者理事就任
51年	兵庫県教育功労賞受賞
55年	西宮市教育功労者表彰
70年	学校法人千歳学園松秀幼稚園設立
78年	甲陽学院高等学校を角石町に移転
87年	甲陽学院中学校新体育館竣工
89年6月15日	逝去

●●● 中学校、食堂新築へ ●●●

甲陽学院は、2006年度から中学校の募集定員を約180名とし、5クラス編成で新たな歩みを始めました。それに伴い、食堂拡充の必要性が生じ、諸般の事情を検討した結果、南棟の木造校舎を取り壊し、そこに食堂を新築する運びとなりました。同窓生の方々には、多くの思い出の残る木造校舎とは思いますが、老朽化に加えて、先般の地震の影響もあり、已むを得ない選択であったことをご理解ください。竣工は本年末を予定しております。なお、前庭はそのまま残し、新食堂も従来の雰囲気を壊さないよう、最大限の配慮をいたしたく思っております。

90周年記念DVD完成 “That's 甲陽 Spirit”

創立70周年、80周年の折にもそれぞれビデオを制作しましたが、90周年を記念してDVDを作製しました。以前の2本とはタッチの異なる、中学1年生の学校生活を中心にした最近の生徒の様子を18分ほどにまとめたものです。校報とともに同窓会会員総会でお頒けする予定ですので、ご希望の方は総会でお求め下さい。

学校だより

甲陽学院同窓生講演会

第2回 ストロー笛演奏会

リコーダー演奏家
神谷　徹（49回）

2007年2月28日㈬の午後、甲陽学院中学校講堂において、第6回卒業生講演会を開催致しました。今回は、テレマン室内管弦楽団リコーダーソリストで、大阪音楽大学の非常勤講師をされている神谷徹氏をお迎えして演奏会を催しました。3年ぶり2回目ですが、生徒にとっては甲陽で初めてのストロー笛演奏会です。情操教育の一つとして、演奏会をお願いしました。

神谷氏は本校卒業後、京都大学理学部宇宙物理学科へ進学されましたが、在学中からリコーダーを始められ、バロック音楽を中心として10回のリサイタルを開くなど、リコーダーの演奏、指導両面で活躍されています。その一方で、市販のストローで作ったユニークな笛を開発され、新聞、テレビなどにもたびたび取り上げられておられます。また、海外でもドイツ、アメリカ、韓国、中国など各国で世代を問わず楽しめるコンサートを数多く開いておられます。その功績に対し、1998年には「あたたかい心を育てる運動」第一回希望大賞を受賞、6月にはハワイ大学で開かれる育児シンポジウムでも講演されました。

当日は、ストローを使った様々な楽器や、リコーダーの演奏とともに、発想の着眼点や開発の苦労話なども交えながら、とても楽しい一時をご提供下さいました。生徒席は、そのユニークさに笑いが絶えませんでしたが、同時に、発想の柔らかさに驚嘆もし、ストローの奏でる不思議なハーモニーに酔いしれていました。甲陽だよりでは音を直接お伝えできないのが残念ですが、写真を掲載致しますので、その場の雰囲気を少しでも感じ取っていただければと思います。

創立90周年を祝して

同窓会からテント3張寄贈

4月27日㈮に開催されました役員総会において、創立90周年を祝して、母校・甲陽学院にテント3張を寄贈することが提案、可決されましたが、体育祭がテントのお披露目になりました。5月13日㈰には高校で1張、6月15日㈮には中学で3張すべて完成し、出番を待つ生徒達に一服の涼を与えていました。

中学校体育祭

会　務　報　告

1　はじめに

平成18年度の会務につきまして、平成19年4月27日に開催されました役員総会の議事内容にしたがってご報告いたします。

まず、有田会長より以下のような概要のお話がありました。

この平成18年度は、新体制のもと会務の遂行に努めてきました。現在の同窓会は一般の社会情勢の急速な転換とともに、同窓会自身も一つの転換期を迎えざるを得なくなってきています。それを乗り越えるべく、新時代の同窓会は如何にあるべきかを自らに問い掛け、同窓会自体の体制の整備と、先ず会務を行う立場にある者の意識改革に、この一年間は努力を傾注して参りました。

一般的に我々の規模のような同窓会は、時代の進化とともに、特に財政の面で活動に厳しい制約を受けざるを得なくなってきています。今までの惰性や慣習のままの運営に終始すると、同窓会活動は成り立たなくなり、沈滞化した活動に終始し、我々の願う同窓会の活性化はおぼつかなくなります。

ここに同窓会自身の進化を求め、皆様とともに新時代を見据えて、お互いに知恵を出し合い努力を惜しまず、新時代に即応できる同窓会体制を固めたいと、その基盤作りの準備に、この一年間は努力して参りました。そして創立90周年を機に、新年度からその培われた苗木を成長させたいと願っています。

2　各委員会活動について

⑴ 会報編集委員会

昨年7月に会報「甲陽だより」第74号を、今年2月に第75号を発行いたしました。ここ10年間ほどの会報の変遷を見ていただければ、大きく変化してきたことがお分かりになると思います。今後とも、内容の充実を図っていきたいと考えております。

⑵ 会員総会運営委員会

平成18年度の会員総会は、昨年8月26日㈯にノボテル甲子園で、新入会員（87回生）を含め約240人が集い開催されました。

その模様につきましては、前号にてご報告しました通りです。

⑶ 奨学金ファンド管理委員会

平成18年度は、委員会を6回にわたって開催し、募金活動、広報、運用、選考などの面について企画・運営にあたって参りました。

醵金の状況については本会報に掲載の通りです。醵金にご協力いただきました皆様に厚く感謝申し上げます。

前号にてご報告の通り、母校在校生への第1回目の奨学金の支給は昨年7月に行われましたが、その後、今年3月に緊急採用の奨学生を1名選考しました。したがって、平成18年度には計6名の奨学生に各20万円の奨学金を支給したことになります。

平成18年度は、35回生・37回生が募金活動の中心となりました。新年度は、36回生・38回生が中心に活動する予定です。

⑷ 会務運営委員会・準備部会

会務運営委員会は会則でいう常設の委員会ではなく、必要に応じて臨時に設けられた委員会です。

同窓会が直面する多くの課題の中で、特に同窓会財政の見直しと新財源確保の問題について、この委員会が諮問を受け、討議することになっております。

また、同窓生相互の繋がりと連帯の強化を如何になすか、その方策を探ることもこの委員会の課題です。具体的には、会員相互の情報交換の場を作るためのメーリングリストやＳＮＳなどを如何に整備するか、などの課題です。

こうした諸問題について論点の整理とまとめを準備部会で行ってきました。新年度には本格的な議論を行い、答申案をまとめたいと思います。

⑸ 公式ホームページ・アーカイブス特別部会

会報を補完し同窓生の交流の場を求めるための公式ホームページの作成がこの部会の一つ目の目的であり、二つ目の目的は、母校と同窓会の古い歴史資料を収録するアーカイブスの作成です。

この二つの目的を、一つの部会で同時進行させることには、やや無理もありますので、組織編成の再検討も必要かと考えています。

3　同窓会財政の現状と平成18年度決算報告について

平成18年度の決算報告書につきましては次頁に掲載の通りです。会費収入の面で、かろうじて予算額を達成することができましたが、この会費収入を下支えしましたのは新卒者の終身会費収入でした。

おそらく、このまま同窓会財政の構造を見直さないまま進みますと、「繰越金」や赤字対策として特別会計に設けた「新基本金（1000万円）」も取り崩さざるを得なくなります。ここに会務運営委員会を設けて同窓会財政の構造・運営の改革を諮問する理由があります。

4　平成18年度監査報告と決算の承認について

平成18年度の会計監査について、川端監事（22回）・水島監事（49回）からご報告があり、承認されました。

ひきつづき平成18年度決算書についても承認されました。

5　創立90周年記念事業について

母校の創立90周年を記念して、同窓会として二つの事業を柱に取り組みたいと思います。

一つは、奨学金ファンドの一層の充実です。現在、今年度の募金の目標金額を2000万円に設定したいと、委

員会で検討中です。

もう一つは、夏の会員総会の充実です。記念大会として盛大に行いたいと考えています。（計画の内容は本会報にて掲載）

さらに、母校に90周年の記念品として、体育祭等に使用するテント3張を贈呈する計画です。

6　平成19年度活動方針と予算について

平成19年度の活動方針として次の各項が承認され、それにともなう予算書（別表）も承認されました。

(1)会報「甲陽だより」を2回発行する。

(2)創立90周年記念会員総会を8月25日に開催する。

(3)奨学金ファンドの更なる充実を図る。

(4)会務運営委員会・準備部会を正式に委員会として活動させる。

(5)アーカイブ部会と公式ホームページ部会の組織の扱いについて結論を出す。

(6)地域甲陽会の活動を支援する。

(7)会員名簿の発行について、個人情報保護の観点も踏まえて検討し、19年度の理事会に付託する。

以上、4月27日に行われました役員総会の議事にしたがって、会務の報告とさせていただきます。

●終身会費・各回別納付金額設定表●

回生	金額	回生	金額	回生	金額
1回	10,000	34回	10,000	67回	26,500
2回	10,000	35回	10,500	68回	27,000
3回	10,000	36回	11,000	69回	27,500
4回	10,000	37回	11,500	70回	28,000
5回	10,000	38回	12,000	71回	28,500
6回	10,000	39回	12,500	72回	29,000
7回	10,000	40回	13,000	73回	29,500
8回	10,000	41回	13,500	74回	30,000
9回	10,000	42回	14,000	75回	30,000
10回	10,000	43回	14,500	76回	30,000
11回	10,000	44回	15,000	77回	30,000
12回	10,000	45回	15,500	78回	30,000
13回	10,000	46回	16,000	79回	30,000
14回	10,000	47回	16,500	80回	30,000
15回	10,000	48回	17,000	81回	30,000
16回	10,000	49回	17,500	82回	30,000
17回	10,000	50回	18,000	83回	30,000
18回	10,000	51回	18,500	84回	29,000
19回	10,000	52回	19,000	85回	28,000
20回	10,000	53回	19,500	86回	27,000
21回	10,000	54回	20,000	87回	26,000
22回	10,000	55回	20,500	88回	25,000
23回	10,000	56回	21,000	高商・1	10,000
24回	10,000	57回	21,500	高商・2	10,000
25回	10,000	58回	22,000	高商・3	10,000
26回	10,000	59回	22,500	高商・4	10,000
27回	10,000	60回	23,000	機械・1	10,000
28回	10,000	61回	23,500	機械・2	10,000
29回	10,000	62回	24,000	造船・1	10,000
30回	10,000	63回	24,500	造船・2	10,000
31回	10,000	64回	25,000	工業・1	10,000
32回	10,000	65回	25,500		
33回	10,000	66回	26,000		

※82～88回は前納年会費以外に上記の金額となります。　（単位：円）

●平成18年度 決算報告書●

[収入の部]

科目	決算額	予算額	差引額
会費	10,207,000	10,000,000	207,000
※年会費	1,546,500	2,000,000	△453,500
※終身会費	3,330,500	3,000,000	330,500
※新卒入会金	609,000	600,000	9,000
※新卒年会費	1,421,000	1,400,000	21,000
※新卒終身会費	3,300,000	3,000,000	300,000
会報広告料	20,000	60,000	△40,000
総会会費収入	808,000	700,000	108,000
利子収入	8,658	20,000	△11,342
雑収入	27,000	0	27,000
寄付金	200,500	0	200,500
収入合計	11,271,158	10,780,000	491,158
基本金解約	0	0	
繰越金	10,712,876	10,712,876	0
合計	21,984,034	21,492,876	491,158

◎H18年12月末日現在　現預金残高明細

＊三井住友銀行（普通預金）	3,629,900円
＊郵便局（普通預金）	313,717円
＊　〃　（振替通知票）	6,493,510円
＊三菱信託銀行（普通預金）	1,274,224円
＊手持現金	16,908円
合計	11,728,259円
H18年度甲陽F預り金	−2,620,000円
甲陽F通帳へ入金	2,700,000円
合計	11,808,259円

[支出の部]

科目	決算額	予算額	差引額
人件費	2,113,680	2,116,000	△2,320
※月手当	1,536,000	1,536,000	0
※夏冬手当	300,000	300,000	0
※通勤費	277,680	280,000	△2,320
交通費	94,020	200,000	△105,980
需要費	630,717	680,000	△49,283
※通信費	468,096	500,000	△31,904
※事務消耗品費	70,231	80,000	△9,769
※備品費	92,390	100,000	△7,610
会議費	2,881,723	3,000,000	△118,277
※会員総会費	1,544,587	1,700,000	△155,413
※役員総会費	262,078	250,000	12,078
※理事会費	175,812	250,000	△74,188
※委員会費	660,457	600,000	60,457
※懇談会費	238,789	200,000	38,789
事業費	3,464,860	3,540,000	△75,140
※甲陽だより	919,597	1,000,000	△80,403
※郵送料	1,462,740	1,500,000	△37,260
※振替用紙	164,062	120,000	44,062
※封筒	176,106	120,000	56,106
※記念品	642,355	600,000	42,355
※母校後援費	100,000	200,000	△100,000
雑費	414,775	340,000	74,775
※校内志	40,000	40,000	0
※慶弔その他	134,000	100,000	34,000
※振替料	115,040	100,000	15,040
※その他雑経費	125,735	100,000	25,735
支出合計	9,599,775	9,876,000	△276,225
特別積立金繰入	66,000	66,000	0
甲陽F積立金繰入	510,000	510,000	0
予備費	0	11,040,876	△11,040,876
支出総計	10,175,775	21,492,876	△11,317,101
収入総計	21,984,034		
支出総計	10,175,775		
翌月繰越金	11,808,259		

（単位：円）

●平成19年度・予算書●

[収入の部]

科目	19年度	前年度	差引額
会費	9,500,000	10,000,000	△500,000
※年会費	1,500,000	2,000,000	△500,000
※終身会費	3,000,000	3,000,000	0
※新卒入会金	600,000	600,000	0
※新卒年会費	1,400,000	1,400,000	0
※新卒終身会費	3,000,000	3,000,000	0
会報広告料	60,000	60,000	0
総会会費収入	2,000,000	700,000	1,300,000
利子収入	20,000	20,000	0
雑収入	0	0	0
寄付金	0	0	0
収入合計	11,580,000	10,780,000	800,000
特別積立金繰入	1,180,000	0	1,180,000
基本金解約	0	0	0
繰越金	11,808,259	10,712,876	1,095,383
合計	24,568,259	21,492,876	3,075,383

[支出の部]

科目	19年度	前年度	差引額
人件費	2,136,000	2,116,000	20,000
※月手当	1,536,000	1,536,000	0
※夏冬手当	320,000	300,000	20,000
※通勤費	280,000	280,000	0
交通費	200,000	200,000	0
需要費	780,000	680,000	100,000
※通信費	500,000	500,000	0
※事務消耗品費	80,000	80,000	0
※備品費	100,000	100,000	0
※ＩＴ関係費	100,000	0	100,000
会議費	3,100,000	3,000,000	100,000
※会員総会費	1,700,000	1,700,000	0
※役員総会費	250,000	250,000	0
※理事会費	250,000	250,000	0
※委員会費	700,000	600,000	100,000
※懇談会費	200,000	200,000	0
事業費	5,140,000	3,540,000	1,600,000
※甲陽だより	1,000,000	1,000,000	0
※郵送料	1,500,000	1,500,000	0
※振替用紙	120,000	120,000	0
※封筒	120,000	120,000	0
※記念品	600,000	600,000	0
※母校後援費	200,000	200,000	0
※90周年事業費	1,600,000	0	1,600,000
雑費	340,000	340,000	0
※校内志	40,000	40,000	0
※慶弔その他	100,000	100,000	0
※振替料	100,000	100,000	0
※その他雑経費	100,000	100,000	0
支出合計	11,696,000	9,876,000	1,820,000
特別積立金繰入	200,500	66,000	
甲陽F預り金繰入	0	510,000	
新規本金繰入	8,000,000	0	
予備費	4,671,759	11,040,876	
支出総計	24,568,259	21,492,876	

（単位：円）

訃報

（07年6月30日現在）

事務局では左記会員の逝去の報に接しました。謹んで哀悼の意を表します。

長谷川三郎氏	（1回）	06年10月23日
内山　正良氏	（12回）	06年11月10日
森田　隆晴氏	（13回）	03年8月14日
高垣雄二郎氏	（15回）	07年6月23日
村田　勝氏	（15回）	94年11月6日
長沢　成男氏	（16回）	06年11月13日
永島　精一氏	（16回）	06年11月1日
川西　敏雄氏	（16回）	07年1月15日
堤　敏夫氏	（17回）	06年9月1日
鎌刈　達夫氏	（19回）	06年12月21日
樋口良次郎氏	（19回）	06年8月4日
和田　久弥氏	（19回）	07年3月17日
久保田利秋氏	（19回）	06年9月20日
尾辻　徹氏	（20回）	05年12月10日
安西　信夫氏	（21回）	06年9月30日
是近　浩氏	（21回）	06年10月7日
筒井　潤氏	（21回）	06年11月18日
井尻　成也氏	（23回）	06年9月7日
大内　隆氏	（23回）	07年6月15日
津田　白義氏	（23回）	07年3月28日
岩本　勇氏	（24回）	06年2月1日
佐藤　博一氏	（27回）	06年11月24日
福重　博氏	（27回）	06年7月
新家　勝氏	（32回）	03年10月6日
上田　道雄氏	（33回）	05年12月
櫻井　靖芳氏	（34回）	07年1月28日
岡崎　光雄氏	（34回）	07年6月1日
顯谷　政敏氏	（36回）	06年9月1日
安達　智氏	（38回）	03年6月11日
小倉　俊彦氏	（38回）	99年3月24日
国沢　政勝氏	（38回）	01年12月23日
多田　道彦氏	（38回）	
仁井　清喜氏	（38回）	06年6月22日
早崎　健氏	（38回）	06年12月6日
山口　哲資氏	（38回）	
辻村　勉氏	（39回）	07年2月23日
松井　満氏	（39回）	06年12月23日
阪本　陸志氏	（41回）	06年1月22日
新井　秀男氏	（43回）	07年4月6日
越智　昭夫氏	（47回）	06年1月19日
深澤　高士氏	（49回）	06年7月15日
山本　義之氏	（85回）	07年2月22日
鎌刈　達夫氏	（高商1）	06年12月21日
堀士　幸雄氏	（高商1）	06年4月5日
加藤　晴夫氏	（高商2）	06年2月
松澤　美作氏	（高商2）	07年5月19日
川西　新氏	（高商3）	06年6月21日
岸　信太郎氏	（高商3）	06年7月10日
岸上　正己氏	（高商3）	06年
木村　隆吉氏	（高商4）	07年2月12日
宮本　高義氏	（高商4）	06年11月26日
宮崎　啓吾氏	（工経）	06年10月6日
厚美　雄三氏	（旧教職員）	06年2月17日
楠瀬　敏彦氏	（旧教職員）	04年11月16日

前号で逝去をお伝えしました山口格太郎先生の享年は86でした。記事から欠けておりましたこと、深くお詫び申し上げます。

高垣雄二郎元会長（15回）急逝

長く同窓会の役員として活躍され、1994年から2000年にかけて会長として同窓会の発展に多大のご尽力をされた高垣雄二郎氏（現、相談役）が、2007年6月23日逝去されました。享年90。故人の遺志により、密葬の儀は近親者の方のみで執り行われました。謹んで哀悼の意を表します。（追悼記事は次号に掲載いたします。）

なお、「お別れの会」が下記日程で行われます。随時献花。香典・供花についてはご辞退とのことです。

日　時：8月18日㈯ 11時半～14時
式　場：ヒルトン大阪　5階「桜山」
（電話06-6347-7111）
喪　主：高垣　綏子様

■あて名ラベルの記号の見方

既に年会費をお納めの方や終身会費をお納めの方には失礼ですが、今回も振り込み用紙を同封しております。未納の方は、よろしくお納め下さい。

平成19年5月31日現在での同窓会費の納入状況をご案内しています。

例：**終身会員H11年度**

♪ 卒 1 1 1	1 1 1 0 0	終

① 上段には、前納の年度、または、終身会費をお支払い頂いた年度を示しています。
その他の場合、この表示はありません。

② 下段には左から順に、平成元年度、2年度、…17年度の年会費のお支払い状況を示しています。

▼記号の意味

1	当該年度分の年会費を納入済	終	当該年度に終身会費を納入	♪	甲陽学院に在籍
0	〃　未納			卒	その年の3月に卒業

従いまして、**下段に含まれる0の個数　×　1000円**が、未納の年会費となります。
同封の振り込み用紙にてお支払いください。

★H元年以降に御卒業の方は、卒業時から7年分の年会費を予めお納め頂いております。
次の二つの例をご参照下さい。

♪ ♪ 卒 1 1	1 1 1 1 0	0 0 0 0 0

H10以降は未納です。
未納分をお納め下さい。

H15年分まで納付

♪ ♪ ♪ ♪ ♪	♪ ♪ 卒 1 1	1 1 1 1 1

H8年3月に御卒業、さらに1年分の年会費を頂いたので、H15年度まで納付しておられます。

㊟尚、年会費を納められるとき「何年度分」と指定されても、過去分が未納の場合、そちらへ充当させていただいております。また不明の場合は、事務局までお問い合せ下さい。

甲陽学院同窓会奨学金ファンドにご協力を

〔醵金方法〕（1）同封の振込用紙を利用し、通信欄にファンドへの醵金の旨を明記して、郵便局もしくは三井住友銀行の「甲陽学院同窓会」の口座にお振り込み下さるか、
（2）三菱東京UFJ銀行芦屋支店　普通口座3998990　口座名義　甲陽学院同窓会奨学金ファンド　にお振り込み下さい。
(2)の場合、振込人の卒業回生が分かるようにお願いします。

2005年4月の役員総会で同窓会奨学金ファンドの開設が正式に承認されて以来、多くの同窓生の賛同を得、翌06年度には定期採用の生徒5名に対し、年額20万円ずつの給付を開始しました。開設以来3年目の今年は、創立90周年にも当たるため、同窓会の記念事業の中核をなすものの一つとして、奨学金基金の一層の拡充を図るべく、甲陽ファンド管理委員会第3代委員長として當舎侃氏（36回）を選出し、各回への理解の浸透と協力依頼に努力する所存です。5月31日現在、総醵金件数は414件、醵金残額は2600万円強となっております。しかし、この制度を永続的なものとし、給付年額、給付人数を含めて、奨学金をさらに充実させるためには、まだ盤石な基金とはいえません。一口1万円から、口数、醵金回数に上限はございません。

ファンド開設時から度々ご協力くださっている福田 達氏（36回）から醵金へのお気持ちを記された文章をいただきましたので、右頁に掲載いたします。

皆様のご協力を重ねてお願い申し上げます。

2007年度 甲陽ファンド管理委員会

委員長	當舎　侃（36回）
委員	西村　善明（36回）、奥野　汎（37回）
	安光　勉（37回）、江嵜健一郎（38回）
	泥　光重（39回）、松村　光雄（39回）
	金井　孝憲（40回）、篠田　勝郎（40回）
	平島　徳治（41回）、花木　繁（42回）
執行部	有田　和男（31回）
オブザーバー	塩谷　洋一（35回）、中村　貞三（35回）
事務局	大川　貴史（55回）、今西　昭（57回）

2007年1月1日以降5月31日までにファンドに醵金くださいました方のご芳名を以下に掲載いたします(敬称略)。まことにありがとうございました。(2006年12月31日以前に醵金された方は73号・74号・75号に掲載しております。)

4回	山野井　萬	35回	尾山　啓二	42回	井上　頴樹	59回	林　正人
11回	中沢　栄一	35回	国領　薫	43回	渡邊　功	59回	村川　浩一
17回	堤　敏夫	35回	西岡　正義	43回	山内　康朗	59回	浜　典男
18回	今野　英一	35回	山崎　一夫	43回	三田　和一	60回	納　浩一
18回	阪口　剛	36回	原納　優	45回	米田　郷彦	60回	阿多　博文
20回	沖野　秀雄	36回	福田　達	46回	船戸　敬介	60回	藤岡　由夫
20回	松村喜八郎	36回	酒井洋一郎	47回	岡田　孝	61回	福田　年宏
20回	田納　望	36回	矢田　忠	47回	広部　一彦	61回	垣谷　文夫
23回	西野　桂一	37回	櫻井　健司	47回	山根　久和	62回	栗栖　孝一
24回	内田　秀男	37回	吉田　順治	47回	瀧口　安彦	62回	吉岡　泰彦
25回	松原　市郎	37回	藤原　義治	47回	三宅　良雄	62回	渡瀬　誠
27回	清水清一郎	37回	豊田　茂男	49回	長島　久明	63回	赤松　俊浩
27回	池田　栄一	37回	赤田　堅	49回	井上　伸	63回	上西　啓介
27回	毛利　治郎	37回	新井粂一郎	49回	桐山　光市	65回	立松　英樹
27回	藤田　義夫	37回	鎌田　信義	50回	内藤　二郎	65回	藤原　誠
27回	足立　宜久	37回	澤井　敏治	52回	冨尾　公一	67回	重村　誠志
28回	勝部重一郎	37回	上田　堯	53回	片岡　良友	67回	山川　博達
29回	小西　博夫	37回	森島　建郎	54回	中島　祥好	67回	坂　好博
29回	水野　隆	37回	安光　勉	55回	鈴木　博正	69回	清水　洋祐
31回	八木　頼夫	38回	福知　保長	55回	桜井　太郎	71回	矢野　嘉彦
31回	平井　達男	38回	江嵜健一郎	57回	白尾　誠二	72回	林　正紀
33回	二宮　一明	39回	永滝　純雄	57回	佐々木健児	74回	河崎　洋之
33回	若田雄太郎	39回	泥　光重	58回	小島　正義	75回	大野　涼太
33回	林　佑吉	40回	長谷川啓治	58回	畔野　康之	81回	木村　展久
33回	山本　雅彦	40回	反町　勝	58回	余部　一郎	87回	沢田隆一郎
33回	森下　哲志	40回	杉浦　哲雄	58回	渡辺　裕之	88回	村井　正大
34回	前田　英雄	40回	中川　徹	58回	岡田　武夫	機械2	浅井　恭之
34回	中村　佳央	41回	五十田安夫	59回	島本　佳憲		88回生　育友会

「三方面作戦の一翼」：細く息長く

福田　達（36回）

先ずは、奨学金ファンド発足に当たり、新制第１期の諸先輩と関係者の方々のご尽力に謝意を表します。今後は会員の協力で実のあるファンドにしてゆくことが求められますが、「三方面作戦」を考えてみました。

余裕のある皆様には、是非太い幹を育てていただくようお願いします。次に、そろそろ退職金を考え始めた皆様には、ファンドの種を蒔くことも配慮の対象に（１０年若い世代の方々に副幹事をお願いしてはいかが)。

第三は、年金と退職金の取り崩しで余生を送っている仲間。毎年少額ながら息長く続けることで、豊かな枝葉をつけることができればと、ささやかな方法を考えました。「○○の一灯」ではありませんが、小遣いの範囲で遣り繰りできるということで、２万円にしています。「相続無し」かつ「意識」がある限り、で何年続けられますか。

力強く育ってゆくことをお祈りします。

「甲陽学院同窓会公式ホームページ＆アーカイブス」だより

甲陽学院同窓会公式ホームページ＆アーカイブス運営特別部会

2006年４月公式に開設以来、７月に「甲陽だより」に発表し、会員の皆様にお知らせいたしました「公式ホームページ」も、2007年５月末現在1780回のアクセス数に達しました。

そこで、特別部会で検討を重ねました結果、「甲陽学院奨学金ファンド」の新設、並びに各地域会等の発足に合わせ、リアルタイムで対応出来るホームページとして2007年７月１日にリニューアルすることにいたしました。

これに伴い従来、ＩＤ及びパスワードの入力の必要であったアーカイブスも公開いたします。しかし、現状問題となっております関係のないアクセス等に対する対処がホームページの運営に重大な影響が出ると考えられた場合には、再度アクセス制限をせざるを得なくなる事はご理解いただきたいと思います。

甲陽学院公式ホームページへのアクセスは、

http://www.koyogakuin-oba.jp

又は、〈http://www.甲陽学院同窓会.jp〉からお願いいたします。

今回のリニューアルで、ホームページから、住所変更等の変更手続きも出来るようにいたしました、会員の皆様のご活用をお願いいたします。

又、甲陽学院同窓会として、歴史に残したい物、記録として残したい会員の活躍や作品等の情報の提供を「アーカイブス特別部会」では求めております。

「情報提供の窓口」から、ご連絡ください。

「甲陽同窓会ネット」(仮称)の立ち上げについて

現在、46回西村さんが中心となり、西村さんの個人的なご好意で「koyo_all」の同窓会ネットが運営されておりますが、この度、同窓会の今後の組織運営と活動を見直してゆく中で、同窓会としてのメーリングリストを整備することが、今後の同窓会運営の中で非常に重要であるという認識の下に、既に甲陽アーカイブスで使用している同窓会のレンタルサーバーを使い、2008年４月１日正式開通を目指し準備が行われております。

このメーリングリストを通じて

1．現在「会員総会」と「甲陽だより」に委ねられている「会員相互の交流の場」としての役割を補い、「甲陽生」というつながりの中で、皆さんの疑問、質問、お願いなどを発信していただき、それに対して、年齢や職業、地域の違いを超えて、同窓生の皆さん自身がお答えいただくことによって、お互い同士をつなぐ、ちょうど人間であれば体全体をつなぐ「血管」や「神経」の役割を受け持つ存在になることを期待しております。

2．東京では既に「東京甲陽ネット」という、主にネット上でのつながりをベースにした地域甲陽会が誕生し、年に数回のオフ会やＯＢセミナーなど、活発な活動を展開しておられます。

　本部同窓会としては、今後、このような地域甲陽会が全国、或いは世界中に誕生し、地域の同窓生の「和」と「輪」を通じて、甲陽同窓会の輪が広がっていくことを目標の一つに掲げ、このメーリングリストがその一助となることを願っております。

以上のように、準備を進めておりますが、その登録に当たって、学年、クラブなどで既にメーリングリストをお持ちのグループを現在、調査中です。

学年、クラブなどで、既にメーリングリストをお持ちのグループの管理者の方は、大変お手数ですが、http://www.koyogakuin-oba.jp/或いは47回山崎hitoshi_ymazaki@ybb.ne.jpまでご連絡をお願い致します。

（47回　山崎仁嗣）

告　知　板

☆同窓生の近著ご紹介☆

同窓会員の方から、最近出版された書籍をお知らせいただきましたので、紹介いたします。ご自身やお知り合いの方の著作物などをご紹介くだされば、検討の上、甲陽アーカイブスへの掲載も考えておりますので、よろしくお願いいたします。

黒 岩 琢 磨(29回)『オリガミ太平記』
荒木真喜雄(31回)『日本の造形　折る、包む』(淡交社)
『日本の折形集　展開図と折形100例』(淡交社)
『四季をよそおう折形　折る包む和の心』(淡交社)
復刻・伊勢貞丈『包結記』(現代語訳集)(淡交社)

☆ 新卒者の終身会費制度 ☆

今年高校を卒業した88回生の皆さんは、卒業時点で終身会費を納めることを選択できます。詳細は、以前に振込用紙同封の文書にてご案内したとおりです。

また、これに伴い、卒業後7年以内の方（卒業時に7年分の年会費を前納）でも、ご希望により終身会費制に移行していただけるようになっています。その際の金額はP.8の表をご覧下さい。

☆「ノボテル甲子園」の優待券 ☆

甲陽学院同窓会会員用に「宿泊15％割引」「レストラン＆バー10％割引」の優待券を発行していただいています。2007年12月30日までの優待券が事務局にございますので、ご希望の方は、お手数ですが、事務局までお電話・FAX・Eメールにてご請求ください。

☆「会報・甲陽だより」の原稿募集 ☆

＊次号・第77号は、来年2月末頃に発行を予定しています。
＊「会員だより(同期会・クラス会)」・「運動部・文化部のＯＢ会だより」・「詩・短歌・俳句の発表」・「クラス会・同好会・研究会等の連絡」などのご投稿をお待ちしています。
＊原稿の締切日は、来年1月10日です。

☆ ご注意！住所・電話番号の問い合わせ ☆

最近、「甲陽学院同窓会」や「甲陽高校事務室」の名前を騙り、同窓生の携帯番号や住所、メールアドレスなどを問い合わせる電話がかかっているようです。

現在、同窓会や母校でそのような調査活動をしている事実はありません。

皆様には、先方の名称・住所・電話番号などをご確認いただいて、慎重な対処をお願いいたします。

☆ 理事・評議員の皆様へ ☆

＊理事・評議員の皆様の中で、転勤などで関西から遠くに転居された方が目立ってきました。更に理事・評議員が選出されていない卒業回、また定員不足の卒業回も見られます。
＊同窓会を運営し活動を行う上で、理事・評議員の方々は重要な役割を担われており、同期の方々の代表でもいられます。会則上、理事・評議員は同期の方々が適宜の方法で選出をされることになっています。よって理事・評議員が空白の卒業回、また定員不足の卒業回の方々は、同期の方々と話合いをされて、その更新・補充を事務局までお届けをお願いします。
＊選出の人数は、理事は、同期（卒業回）から1名。評議員は、各クラスから1名（5名以内）です。

☆ ーお願いー　住所変更の届け ☆

＊会報の発行に際し、毎回・約100通に近い会報が転居先不明で戻ってきます。
＊その都度、事務局で労力と時間をかけて、転居先の調査を行い再発送を行っています。事務局の確認作業にも限界があります。住居を移転された時は、忘れずに事務局まで住所移転の通知をお願いします。
＊各回卒の理事・評議員の皆様は、同期の方に住所・勤務先等の変更の連絡がありましたら、必ず事務局にも、ご連絡の程お願いを申し上げます。

原稿は出来る限り400字詰原稿用紙1枚以内にして下さい。原則として原稿（含写真）は返却いたしませんので御了承下さい。

会員だより

甲陽学院創立90周年記念 ゴルフ大会開催ご案内

向暑の候、貴兄ますます御壮健にて御過ごしの事と存じます。

さて、母校も創立90周年を迎えました。これを記念してゴルフ愛好の老・壮・青が相集い、同窓の交流を深めたいと下記要領にて開催いたします。ふるって御参加下さい。

（記）

1. 開 催 日：平成19年10月25日㈭　9:03スタート OUT・IN各5組
2. 場　　所：有馬富士カンツリークラブ　三田市香下
3. プレイフィー：14,000円（キャディーフィー・昼食・ワンドリンク含む）
4. 懇親会費：4,000円（フリードリンク）
5. 賞　　品：ご自宅より3,000円以上相当の御品を御持参下さい。
6. メ　　切：9月末日（先着順　10組）
7. 出場の方は下記宛先へFAXでお申し込み下さい。

有馬富士開発㈱
甲陽G－C気付　岡野様宛（06-6220-5679）
氏名・卒業回数・住所・TEL・FAXを明記の上申し込んで下さい。

8. 詳細は出場の方に後日ご連絡いたします。
9. 幹　　事：32回　金山二生　　33回　二宮一明　35回　中村貞三
10. 綜合連絡先：金山　078-411-1432

以上

18回 くすのき物語

西宮市香枦園の浜辺に近い「学校法人辰馬育英会・甲陽学院中学校」校庭の北の奥に一本の楠がある。

財団法人辰馬学院甲陽中学校は大正末期から阪神甲子園駅のすぐ西、阪神電車の南に接していた。はっきりした記憶ではないが昭和十三年の春、校舎正面向って右側に楠が植えられ、その年の夏休みのあいだ、近くに住む級友・藤木君が毎日水やりに来て元気に根付いた。翌年昭和十四年三月私は甲陽中学校を卒業し、楠のことを久しく忘れていた。

辰馬学院は学制改革により昭和二十二年四月甲陽学院中学校を香枦園に新設し、甲子園の校舎、校庭が売却される時に大木になったあの楠が二メートルほどに短く斬られて香枦園の中学校の庭に移植された。先日私は七十年の風雪に耐え新しい枝を出し元気に育っている楠を見て、あの頃を懐かしく思い出したのである。楠は旧制甲陽中学校の、今また新制甲陽学院中学校の生徒たちを見つめている。　（森本　記）

18回 山櫻会

平成19年4月9日㈪　11:30～14:00
大和屋「林泉」　ラマダホテル大阪
出席者：富田、森本、清水、貴田（当番）

今年も昨年同様4名であった。2時間30分談笑して時の経つのを忘れたが、出席者の少ないのは淋しい限りである。就いては、第18回生の櫻組（山田在夫先生クラス）の出身者の内で、会への案内状洩れの出席可能な方は、貴田迄連絡して下さい。

上段　貴田、森本
下段　富田、清水、

22回 橘友会

平成19年5月24日午後、宝塚のホテル若水に8名が集い、1年ぶりに橘友会を開催しました。

先着4名は最上階で悠々と温泉を楽しんだ後、2階の「山茶花」個室で4名と合流、「乾杯！」となりました。宴たけなわとなった頃からは、全員六十数年前の甲陽健児にかえり、校風、授業、恩師、友人等々の懐旧談に花を咲かせました。

今回特に空路の日帰りで都城から参加された持永君から、親戚の持永哲志氏が東国原英夫氏に敗れた知事選挙と、宮崎県のためにも現知事に期待するとの珍しい話も聞け、歓談の2時間が瞬く間に経過、再会を約してお開きとなりました。

帰途、宝塚大劇場を望む宝来橋で撮った写真は前列左から、池田、酒井、斎籐、後列左から、白岡、持永、清水、赤塚、芦田です。　（酒井　記）

42回 東日本在住同窓会

日　時：平成19年4月28日㈯　12時～
処　：東京浜松町イタリアンレストラン「サン・ミケーレ」
出席者：平野敬則・奥山純・矢野隆昭・木村一郎・飯田潔・川崎紀夫・糸井幹雄・花木繁・松尾征治・川口昭弘・稲野昌夫・小味渕博雄
幹　事：飯田潔・奥山純・小味渕博雄

ご出席の予定であった中川先生が坐骨神経痛の悪化でやむを得ず欠席されましたが、大阪より糸井氏及び花木氏、又静岡より木村氏が出席されました。

今回通知を差し上げた方の約85％の方々から近況報告などを頂きました。

60代の半ばになると皆夫々生活が落ち着いている模様で、興味深く出席された方々に披露致しました。

甲陽40周年の写真集（中学の時に運動場でKOYOの人文字を書いたものです）を回覧し、又今回のハイライトである関東旅行（甲陽では中学は修学旅行と言わず関東旅行と言ったそうです）の八ミリをビデオに焼直して川崎氏が持って来てくれました。箱根・日光南間ホテル・明治神宮等々懐かしい映像を満喫致しました。南間ホテルでは、たまたま一緒になった女子学生と後で文通をして中川先生に怒られた等の秘話が報告されました。

3時間は少し長いかと思ったのですが、あっという間に3時を過ぎ、折からの激しい雷雨の中解散致しました。

（小味渕　記）

51回　C組同窓会

2006年12月30日、中島博先生をお迎えし、大阪ヒルトンプラザ聘珍樓にて、恒例のC組同窓会を開催しました。

幹事は黒川、岸田、参加者は浅野、井上、神戸、木下、黒田、桑田、近藤、竹山、永田、野口、早崎、早瀬、森本の16名でした。

今回不参加の方もぜひまたご参加ください。

61回　同期会

61回の同期会を6月2日東京赤坂にて開催。在住者の半数以上の40名近くが参加して、大盛り上がり。

27年ぶりの人も多いのですが、「うれしはずかし」は最初の10分で吹っ飛びました。　（幹事：吉田、小町）

グリー部　OB・現役合同コンサート

1971年以来母校で音楽を指導されている松井先生が、このたび還暦を迎えられました。それを記念して、松井先生から男声合唱の魅力を教わったグリー部のOBと現役が合同コンサートを開きます。

第5回不定期コンサート

日　時：2007年8月14日㈫　午後2時～4時
会　場：宝塚ベガホール（阪急清荒神駅前）
曲　目：組曲「富士山」、フォスター名曲集、愛唱曲集、ほか

入場無料です。どうぞ御来聴ください。　（57回今西）

～～事務局からのお願い～～　年会費・終身会費の納付をお願いします

同窓会は、皆様からの年会費・終身会費の収入があってはじめて活発かつ円滑な運営が行われます。

年会費は、平成20年度から増額される動きにあります。

新終身会費の特典（最高2万円の減額）は、平成20年度をもって、その特典の期限が終了となります。その特典の有利さを生かして、その期限内に年会費から終身会費への切り替えをお勧めします。

卒業年度によって終身会費の納付金額が異なりますので、8頁掲載の「終身会費・各回別納付金額設定表」をご参照の上、毎年の年会費の納付から、1回限りの終身会費の納付への切り替えをお願いします。

これにより、事務局として、同窓会業務の煩雑さが減少し、業務の合理化と日常経費の削減にも繋がります。

皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

いざ集わん！甲陽健児

創立90周年記念会員総会の束ね役、総合司会は、初登場、NHKアナウンサーの**真下（ましも） 貴**氏（69回）。真下氏は88年に甲陽学院高校を卒業、京都大学経済学部に進学し、92年NHK入局。初任地は神戸放送局。阪神淡路大震災のときは、自ら被災しながらも、NHKで現地リポートを出した最初のアナウンサーです。98年に東京に異動し、主に報道を担当。現在は「おはよう日本」（土・日・祝日）のキャスターや大河ドラマ「風林火山紀行」のナレーションを担当されています。

第1部の講師、**中西 寛**氏（62回）は、02年に京都大学大学院法学研究科教授、06年からは公共政策大学院教授に着任されています。略歴は前号をご覧下さい。ご専門は国際政治学ですが、特に20世紀国際政治史、日本の安全保障政策史、安全保障論を中心に、日本の対外政策等についても研究されています。大学を出て久しい同窓諸兄は、青春時代に立ち返ったつもりで、また、現役の学生の方は大学で聴く講義とは違った角度から、国際政治学の第一人者のお話にじっくり耳を傾け、しばし甲陽アカデミズムに浸ってみて下さい。

引き続き、**第2部**は**竹田昌弘**氏（59回）と**島崎政子**さんのコンサートでお楽しみ下さい。85周年記念会員総会にもご登場いただいた竹田氏は、大林組に勤務する傍ら関西二期会に所属し、オペラの舞台にも立ち続けられ、いわば二足の草鞋を見事に実現されています。今回は同じ関西二期会に所属される島崎政子さんもお迎えし、ソロあり、デュオありのクラシック音楽の楽しさ、魅力に溢れる一時をお過ごし下さい。

そして、**第3部**。場所を移しての懇親パーティー。今度は“タカラヅカ”の雰囲気をお楽しみ下さい。84回生・岡本紳平さんのご母堂でもある**桐生のぼる**さんは、現在も現役のダンサーとして活躍しておられると同時に、ジャズダンスの指導、振付もなさっています。華麗なる舞台の後は、懇親会。ノボテル甲子園の美味しい料理と、ご寄贈賜りました清酒「白鹿」やサントリーのビールとウィスキーで、先輩後輩の枠を超えた甲陽学院ならではの懇親の場を満喫して下さい。創立90周年記念会員総会にご協賛下さいました同窓の皆様からの寄贈による景品も用意いたしております。大いに語り合い、懐かしい思い出を共有できる至福のときをご堪能下さい。

創立90周年記念品のご紹介

まずは**記念ストラップ**。十代の多感な時期を甲陽で過ごした学生生活は、世代によりその折々の世情が異なり、その想い出も十人十色でしょう。しかし、母校への想いをどの世代も変わらずにイメージするのは校章であろうと、シンボライズされた**校章を七宝**で象り、ストラップにしてみました。色は**グリーン**と**ブルー**の2種で、近年使われているロゴマーク“KOYO”を裏面にあしらっております。母校を愛する同窓生の絆の証としてご愛用いただけることと存じます。ご希望の方は、**会員総会の会場で1,200円**でお求めいただけます。（今回は当日会場のみの販売となります。）

そして、同窓生の方々だけに記念のお酒を**予約販売**いたします。

最初に、我らがふるさと、西宮の辰馬本家酒造株式会社で仕込んだ限定清酒：

白鹿クラシックス
「しぼりたて原酒」
720ml **1,400円**（送料込）

次いで、世界で唯ひとつ、甲陽だけの一樽（カスク）をOBのあなたに。

サントリー山崎蒸留所で育った10年ものシングルカスク ウィスキー：
“The Owner's Cask”
720ml **5,000円**（送料込）

ウィスキーは**150本限定**。**お1人6本まで**とさせていただきます。

清酒・ウィスキーは予約販売といたします。ご希望の方は、甲陽学院同窓会事務局まで、氏名、回生、住所、電話番号明記の上、葉書、FAX、またはメールでお申込み下さい。折返し振込用紙をお送りします。お振込みを確認の後の発送となります。**宛先は16ページinformationの問合せ先**をご覧下さい。お申込みは**9月末**までにお願いします。なお、少量に限り、清酒・ウィスキーの当日販売も行う予定です。

最後に、学校からの記念品。第14代当主・辰馬吉男氏の事績を特集した**『校報』**と中学1年を中心に最近の生徒の様子を描いた**DVD “That's 甲陽 Spirit”**（18分）。セットで頒価**1,500円**。こちらは会員総会当日、会場でお頒けいたします。

いろいろ盛り沢山の創立90周年記念会員総会。どうぞ当日をお楽しみにご参集下さい。

創立90周年記念会員総会開催

8月25日(土) 13時半～17時(開始時刻にご注意下さい)　於：ノボテル甲子園

甲陽学院同窓会にとって、夏の風物詩ともいえる会員総会。今年も例年と同じく8月の第4土曜に、甲陽発祥の地、甲子園高潮町のノボテル甲子園にて開催します。しかも、今年は創立90周年にあたる記念すべき総会です。イベントも盛り沢山なら、記念品も数多く用意しております。年1回の、そして90周年という2度とないこの記念総会に、どうぞお誘い合わせの上、奮ってご参加下さいますようお願い申し上げます。(15頁もご覧下さい。)

今年は3部構成で行います。そのため、いつもより開始時刻が30分繰り上がって、13時半となっておりますのでご注意下さい。

第1部・式典と講演会

講師 京都大学公共政策大学院教授・中西 寛氏(62回)

演題「岐路に立つ世界と日本の生き残り戦略」

日本を代表する国際政治学者の中西教授が世界の将来像を徹底分析して下さいます。

第2部・ミニコンサート

～イタリアオペラの名曲とカンツォーネ～

竹田昌弘氏(59回)＆島崎政子さん

しっかり勉強した後は、歌曲で頭をほぐしましょう。

第3部・懇親パーティー

ゲストは元宝塚歌劇団星組スター・**桐生のぼる**さん。彼女の率いる歌とダンスのショー“Dance&Song Live PETIPA！”をお楽しみいただき、華やぎの中で旧交を温めましょう。

記念総会ということもあり、記念品もいろいろ準備しました。詳細・購入方法は15頁をご覧いただくとして、そのラインナップをご紹介しましょう。

その1つは、携帯電話などにお使いいただける校章入りの**ストラップ**。校章を七宝で象った特注品です。

そして、忘れてはならないのが、清酒**「白鹿」**。辰馬本家酒造株式会社にお願いし、**限定清酒**を記念ボトルにつめてもらいました。

また、サントリーから甲陽だけの一樽（カスク）“The Owner's Cask”も用意しました。

学校から、第14代当主・辰馬吉男氏を特集した『**校報**』と、中学1年を中心に最近の生徒の様子を描いた90周年記念DVDも同時に頒布していただきます。

ホームカミングデーにあたる**38回生**と**63回生**の皆様には記念品として、このストラップを差し上げます。なお、**当番学年は58回生**です。同期の皆様、多数ご参加下さい。

information

日　時　平成19年8月25日㈯
第1・2部　13時30分～15時40分
第3部　15時40分～17時

会　場　ノボテル甲子園（旧甲子園都ホテル）
TEL0798-48-1111

会　費　一般会員　6000円（当日会費）
学生会員　2000円（当日会費）
同伴家族　2000円（当日会費）
新卒者（平成19年3月卒）無料

※母校への問合せはご遠慮下さい。

申込方法　同封の振込用紙で、8月16日㈭までに会費をお振込み下さい。あるいは8月20日㈪までに事務局まで参加のご予約を下さい（葉書、電話、FAX、Eメール）。**この場合は特別割引として、一般会員5500円、学生会員・同伴家族は1500円とさせていただきます。**

問合せ先　甲陽学院同窓会事務局　〒662-0096 西宮市角石町3-138
TEL 0798-71-4888(月・水・木・金)10時～16時
(8月12日～19日は母校夏期閉鎖期間につき不在)
FAX 0798-71-4890
Eメール　fvgp1650@mb.infoweb.ne.jp

☆当日の料理・名札等の準備がありますので、できるだけ事前振込かご予約をお願いいたします。
☆まだまだ暑い折ですので、当日はカジュアルな服装でご参加いただいて結構です。
☆平成15年の役員総会の決議により、新卒者以外の無料会員の制度が廃止になりました。上記の会費にて運営いたしたく、よろしくご了承下さいますようお願い申しあげます。

Superbly located for business or pleasure.

www.novotelkoshien.com

NOVOTEL ACCOR hotels KOSHIEN

西宮市甲子園高潮町3-30　TEL.0798-48-1111

ノボテル甲子園

ACCOR ▶ A worldwide leader in hotels, tourism and services